

数 学

(7) 数学

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自主的、協働的に解決する学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 学習課題に対して、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりする学習活動など、言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫 (3) 情報活用能力の育成に向け、必要に応じそろばんや電卓、コンピュータ、情報通信ネットワークなどを活用して、学習の効果を高めるための工夫 (4) 数学を活用して問題解決する方法を理解するとともに、自ら問題を見だし、解決するための構想を立て、実践し、その過程や結果を評価・改善するための工夫 (5) 具体物を操作して考えたり、データを収集して整理したりするなどの具体的な体験を伴う学習を充実するための工夫 (6) 数学的活動を楽しめるようにするとともに、数学を学習することの意義や数学の必要性などを実感する機会を設けて、生徒の自主的、自発的な学習を促すための工夫 (7) 他の教科や小学校等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容別配当の分量 (2) 教材・資料等の分量 (3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等
3 その他	今日の課題への配慮や工夫

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫。

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
2 東書	<p>●着眼点(1)について</p> <p>・章のとびらにその単元の学習活動の概要を示し、見通しをもって学習に取り組むことができるよう工夫されている。また、「深い学び」のページで「問題をつかむ→見通しをたてる→問題を解決する→振り返る→深める」の過程を示し、問題解決のすすめ方を意識しながら取り組めるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕1年（P11等）、2年（P83～84等）</p> <p>●着眼点(2)について</p> <p>・「対話シート」が用意され、ペア学習やグループ学習などの場面で、主体的に自分の考えを表したり、共有したりしやすいよう工夫されている。</p> <p>〔例〕1年（P12等）</p> <p>・章末では「活用の問題」を豊富に取り上げるなど、日々の学習を通して思考力・判断力・表現力を養い、伸ばすことができるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕2年（P34等）</p> <p>●着眼点(3)について</p> <p>・「Dマーク」のついた箇所では、インターネット上にフラッシュカードや動画など、デジタルコンテンツにアクセスできるよう二次元コードが配置されている。</p> <p>〔例〕1年（P16、P108等）</p> <p>・より細かな単位で理解を確認する「クイックチェック」を設け、必ず身につけたい問題を取り上げ、生徒自身がつまづきを早期に発見できるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕1年（P99等）</p>	<p>●着眼点(4)について</p> <p>・ほぼすべての節に「学びを振り返ろう」を設けることで、その節で働かせた見方・考え方の振り返りができるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕1年（P18、P102等）</p> <p>・「Q考えてみよう」から始めることで課題意識をもたせ、「補助発問①、②、…」を手掛かりに段階をふんで解決できるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕1年（P66等）</p> <p>●着眼点(5)について</p> <p>デジタルコンテンツの「シミュレーション」では、図形を動かして観察したり、データを表やグラフに整理したりして、数学的活動の中で、観察・操作ができるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕1年（P208）、3年（P25）</p> <p>●着眼点(6)について</p> <p>「章とびら」「節の導入」「深い学び」などでは、生徒が日常生活や社会の問題を解決したり、数学の新しい性質を見いだしたりする活動を扱い、数学的活動の楽しさや数学のよさが実感できるよう工夫されている。また、該当箇所には、MATH CONNECT「身のまわりとつながる」のアイコンを示し、数学の有用性を意識できるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕1年（P83～84、P91～93等）</p> <p>●着眼点(7)について</p> <p>各学年の最初の章では、「学び方のページ」を設け、小学校でも大切にしてきた問題解決型の学び方を深めることができるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕1年（P12～13等）</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
4 大日本	<p>●着眼点(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各単元の最初に導入となる活動を設け、活動に取り組んで見いだした問題が、次ページ以降の学習につながるよう設定することで、主体的・対話的に解決できるよう工夫されている。 〔例〕 1年 (P238～239 等) ・1年巻頭の「数学の世界へようこそ」では、グループ学習をふくめた対話的な学び方の例を示すなど主体的・対話的で深い学びの実現に向け工夫されている。 〔例〕 1年 (P7～8 等) <p>●着眼点(2)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「活動」では、説明する場面や、考えを比べたり、考察したりする活動を取り入れ、数学的な思考力・表現力が高められるよう工夫されている。 〔例〕 1年 (P84、P158 等) ・「Q判断しよう」「Q伝えよう」を設け、学習した内容をもとに判断したり、数学の用語や図などを使って他の人に考えを伝えたりすることで、数学的な判断力・表現力を育むことができるよう工夫されている。 〔例〕 1年 (P30、P39 等) <p>●着眼点(3)について</p> <p>対応するページに「WEB」マークを付し、シミュレーション、動画、資料等の「ウェブコンテンツ」にアクセスできるよう二次元コードが配置されている。 〔例〕 1年 (P49 等)</p>	<p>●着眼点(4)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 節で学習したことを確かめる問題「たしかめよう」や、各章で学習したことが身についたかどうかを評価する問題「〇章をふり返ろう」に取り組むことで、自己評価したり学習したページへ戻ったりすることができるよう工夫されている。 〔例〕 1年 (P40、P62 等) <p>●着眼点(5)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの活用領域では、実験や調査から得られた実際のデータが多く用いられている。 ・実社会でデータの活用が役立つことを紹介するなど、データの活用に関する知識や技能の必要性を実感できるよう工夫されている。 〔例〕 1年 (P238～239、P256～257 等) <p>●着眼点(6)について</p> <p>学習の区切りで、学んだことをふり返ることを促す質問や、章末の最後の問いでは、その章で学んだことのよさに気づかせるような課題を設けて、数学のよさを実感できるよう工夫されている。 〔例〕 1年 (P17、P234 等)</p> <p>●着眼点(7)について</p> <p>「小学校算数のふり返り」を設け、1年の学習と関連させ、まとめに記述されていることを読んだり、問題に取り組んだりして、算数の学習を想起できるよう工夫されている。 〔例〕 1年 (P280～285 等)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
11 学図	<p>●着眼点(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の導入で身近な題材を扱い、生活の中の疑問を発見し、それについて考えてみたいという意欲を引き出すよう工夫されている。 〔例〕1年 (P10～11 等) 「数学的活動」のページでは、問題を発見し、解決する過程を示し、さらに新たな問題を発見したり、条件を変えて考えたりできるような問いかけを示すことで、深い学びが実現できるよう工夫されている。 〔例〕1年 (P50～51、P132 等) <p>●着眼点(2)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「数学的活動」のページでは、問題解決に向けた話し合いを通して、主体的・対話的に学習が進められるように工夫されている。 〔例〕2年 (P27～28 等) 「説明する力をつけよう」では、問題解決の方法を他者にわかりやすく伝えたり、対話を通して考え、簡潔・明瞭・的確に表現したりする力が高められるよう工夫されている。 〔例〕1年 (P158～159 等) <p>●着眼点(3)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「プログラミングを体験してみよう」のページを設定することで、論理的な思考の大切さやICT活用の重要性に気付くことができるよう工夫されている。また、デジタルコンテンツの内容がわかる言葉を付した二次元コードが配置されている 〔例〕2年 (裏見返し等) 	<p>●着眼点(4)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「数学的活動」のページでは、考察の後に自分たちで見つけた課題について「次の課題へ！」から「目標」「どんなことがわかったかな」でまとめ、また新たな「次の課題へ！」とつながるよう工夫されている。 〔例〕2年 (P44～45 等) <p>●着眼点(5)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「データの活用」や「データの分布」、「標本調査」の学習では、表計算ソフトの使い方を掲載するなど、資料の収集や整理が効率的にできるよう工夫されている。 〔例〕1年 (P273～274 等) <p>●着眼点(6)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「数学の力」や「数学へのいざない」のコラムを掲載することで、数学がさまざまな日常の場面に関連していることを実感し、学びに向かう意欲を喚起するよう工夫されている。 〔例〕1年 (P197、巻末等) <p>●着眼点(7)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の始めの「ふりかえり」のページで、領域ごとに小学校でどんなことを学んできたか振り返ることで、スムーズに数学の学習に入ることができるよう工夫されている。 「Tea Break」や「数学へのいざない」などでは、上位学年の内容にもスムーズに触れられるよう工夫されている。 〔例〕1年 (P8、P29、P90 等)

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
17 教出	<p>●着眼点(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習過程で生じる生徒の疑問から、主体的・対話的な学びを通して、学習してわかったことや解決のしかたを見だし、さらに新たな疑問へつなげられるよう工夫されている。 <p>〔例〕1年（P146～148、P155等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭「大切にしたい数学的な見方・考え方」では、数学の学習で働かせたい見方・考え方を既習の具体的な事例をもとに紹介することで、どのような見方・考え方があるかを知ることができるよう工夫されている。 <p>〔例〕1年（P6～9）</p> <p>●着眼点(2)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みんなに説明しよう」では、誤った考え方を意図的に取り上げ、誤りであることを論理的に説明する能力を身につけられるよう工夫されている。 <p>〔例〕1年（P91、P157等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・章末「学習のまとめ」では、学習してわかったことや、解決のしかたをふり返ることで、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する力が育まれるよう工夫されている。 <p>〔例〕1年（P63等）</p> <p>●着眼点(3)について</p> <p>アニメーションや映像、試行錯誤的な操作が可能なシミュレーションなどができる「まなびリンク」にアクセスできるよう二次元コードが配置されている。</p> <p>〔例〕1年（P166、P218等）</p>	<p>●着眼点(4)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・章末の「学習のまとめ」では、「さらに学習してみたいこと」をまとめさせ、学習をふり返って評価・改善しようとする態度を養うよう工夫されている。 <p>〔例〕1年（P63等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びのプロセス」を設け、問題発見・解決の過程を生徒に意識づけるよう工夫されている。 <p>〔例〕1年（P125～126等）</p> <p>●着眼点(5)について</p> <p>「データの分析」の単元では、道路の安全対策など様々な場所に統計データが活用されている話題を紹介し、数学と実社会との関連を実感するとともに、安全意識が高まるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕2年（P207～219等）</p> <p>●着眼点(6)について</p> <p>「章とびら」では、実社会や日常生活、先端テクノロジーなどの数学に関わる話題を取り上げ、数学を学ぶことの必要性を感じられるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕1年（P13、P23等）</p> <p>●着眼点(7)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬日の日数の経年変化、エッシャーのしきつめ絵などを題材として取り上げ、教科を横断的に取り組むことができるよう工夫されている。また、「さくいん」では英語の表記を併記し、数学の国際性を感じられるよう工夫されている。 <p>〔例〕1年（P326～327）、2年（P208、P273等）</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
6 1 啓林館	<p>●着眼点(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 各章(節)先頭の「学習のとびら」において、その節の学習を進めると解決できる身の回りの問題などを取り上げ、学ぶ楽しさや意義を実感し、主体的・対話的で深い学びが展開できるよう工夫されている。 単元末の「○章のあしあと」で、わかったこと、できるようになったこと、さらに学んでみたいことをまとめる場面を設定し、自らの学びを確認できるよう工夫されている。 <p>〔例〕1年(P148～149、P55等)</p> <p>●着眼点(2)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「説明しよう」で、ことがらが成り立つ理由などを説明することを通して、自分の考えを明らかにしながら表現する力が身につくよう工夫されている。 <p>〔例〕2年(P115等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「話し合おう」で、他者の考えを尊重しながら、自分の考えとの違いを理解し、どれが正しい考えなのかを判断する力や、自分の考えが他者に理解される表現力が身につくよう工夫されている。 <p>〔例〕1年(P77等)</p> <p>●着眼点(3)について</p> <p>場面理解や数学的活動をサポートする動画等のデジタルコンテンツにアクセスできるよう二次元コードが配置されている。</p> <p>〔例〕1年(P114、P205等)</p>	<p>●着眼点(4)について</p> <p>すべての単元に「○○の利用」の節を配置することで、「問題を設定する、解決する、解決の過程をふり返って改善を図ったり新たな問題を設定したりする」といった数学的な問題発見・解決の過程を意識できるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕1年(P166～168等)</p> <p>●着眼点(5)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「データの活用」では、データの収集・記録ができるよう二次元コードを配置している。 収集したデータを度数分布表に整理したり、ヒストグラムや箱ひげ図を自動作成したりできるツールも用意されている。 <p>〔例〕1年(P222、P230等)</p> <p>●着眼点(6)について</p> <p>「学びをいかそう」では、各単元の学びを数学の世界や身のまわりで活用する課題を掲載し、数学を学ぶ意義や有用性を実感して新たな学びに向かうよう工夫されている。</p> <p>〔例〕1年(P276～277等)</p> <p>●着眼点(7)について</p> <p>理科と関連したてんびん、家庭科と関連したクッキーの調理等の題材を掲載し、数学の活用場面を実感できるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕1年(P91、P109等)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
104 数研	<p>●着眼点(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・章や節の最初は、新たな学習内容の必要性を考えたり、身の回りにある事象から数学的な事象を見いだしたりして、興味・関心をもって学習に入ることができるよう工夫されている。 〔例〕 1年 (P12～13 等) ・紙面上のキャラクターの対話によって問題場면을視覚化して示すことで、生徒が数学的な見方・考え方を身につけられるよう工夫されている。 〔例〕 1年 (P16、P175 等) <p>●着眼点(2)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ことがらの説明」「方法の説明」「理由の説明」など、説明する機会を豊富に設けることで、言語活動を充実させ、伝え合う力が高まるよう工夫されている。 〔例〕 1年 (P243 等) ・数学の正しい用語を使って説明ができるように、二次元コードでイラスト付きの用語カードにまとめられている。 〔例〕 1年 (P311 等) <p>●着眼点(3)について</p> <p>生徒の特性や習熟度に応じた学びをサポートできるよう「補充」「イメージ」「資料」「考察」「探求」の5種類のデジタルコンテンツにアクセスできる二次元コードが配置されている。 〔例〕 1年 (P165、P190 等)</p>	<p>●着眼点(4)について</p> <p>「データの活用」の単元において、問題解決の流れをまとめ、後見返しに「学びの自己評価」を掲載し、問題解決の過程や結果を評価・改善するよう工夫されている。 〔例〕 1年 (P256、後見返し等)</p> <p>●着眼点(5)について</p> <p>課題に対して操作をしながらきまりを見いだしたり、結論を確かめたりするコンテンツが用意されている。また、データからグラフや表を作成し、比較や考察ができるよう工夫されている。 〔例〕 3年 (P168 等)</p> <p>●着眼点(6)について</p> <p>学んだ内容を活用して解決する「TRY」を各所に設け、数学の有用性が感じられるよう工夫されている。 〔例〕 1年 (P105、P150 等)</p> <p>●着眼点(7)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて小学校の学習内容に触れ、内容の系統性を理解できるよう工夫されている。 〔例〕 1年 (P31) 2年 (P195) 等 ・時差や音の速さを活用する題材等、他教科の内容と関連づけられるよう工夫されている。 〔例〕 1年 (P60、P75 等)

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
116 日文	<p>●着眼点(1)について</p> <p>・各小節の「大切な見方・考え方」で、その場面で必要な「数学的な見方・考え方」を具体的に示すことで、数学的な見方・考え方を働かせながら数学的活動に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 1年 (P31、P80 等)</p> <p>・巻頭の「数学の学習を始めよう！」では、話し合うときのポイントや学習をふり返るときのポイント、学習を深めるためのポイントなどを示している。</p> <p>〔例〕 2年 (P4～5)</p> <p>●着眼点(2)について</p> <p>・各小節に「説明できるかな？」の問いを設け、数学的な表現を用いて説明する力や記述する力を高めるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 1年 (P114、P223 等)</p> <p>・「考えよう」「話し合おう」「深めよう」「説明できるかな？」など、知識及び技能を習得する過程で生徒が考えたり説明したりする活動を設けることで、知識及び技能と思考力・判断力・表現力が無理なく身につくよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 3年 (P110～119 等)</p> <p>●着眼点(3)について</p> <p>理解を助けるアニメーションや動画、考察を深めるシミュレーションなどのデジタルコンテンツにアクセスできるよう二次元コードが配置されている。</p> <p>〔例〕 1年 (P10、P19 等)</p>	<p>●着眼点(4)について</p> <p>「学び合おう」の小節では、問題解決型の授業展開が示され、巻末には「学び合おう」に対応した「対話シート」を掲載し、自分の考えをもち、対話を通して深い学びを実現できるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 1年 (P52～53、巻末等)</p> <p>●着眼点(5)について</p> <p>巻末付録を使った具体物の操作活動と教科書の二次元コードのシミュレーションを併用できたり、ウェブページへのリンクや統計ツールを使ってデータを収集・整理したりする等、具体的な体験を伴う学習ができるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 1年 (P191、P214～233 等)</p> <p>●着眼点(6)について</p> <p>各章の「数学のたんけん」や巻末の「SDGs と数学」等、様々な場面で数学が活用されていると知ることができるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 1年 (P248～249 等)</p> <p>●着眼点(7)について</p> <p>・1年の教科書に、小学校算数の内容をふり返ることができる「算数の確かめ」を設けるなど、学び直しができるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 1年 (P264～268 等)</p> <p>・ページ横欄の「確かめ」で、問題解決に必要な既習事項を確認し、小学校算数で学んだ事柄を学び直すことができるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 2年 (P167 等)</p>

2 使用上の便宜

項目	(1)内容別配当の分量										(2)教材・資料等の分量						
	A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	まとめの問題	特設・選択教材等	目次・解答等	巻末折り込み	身の回りの数学的活動例の数	発展的な学習の問題の数	対話的な活動を示した例の数	環境・防災・人権等 社会問題に関する教材の数	二次元コードに関するもの数	文献・読み物資料の数	三重県に関わる記述等		
																発行者の番号・略称	総ページ
2 東書	1年	321	90	68	40	20	34	14	21	4	37	27	20	6	231	18	-
	2年	257	38	66	37	23	32	10	19	0	28	30	18	4	181	26	-
	3年	289	68	84	33	11	38	8	19	0	34	33	23	4	205	15	-
4 大日本	1年	311	94	74	39	20	26	23	21	9	32	31	13	4	102	24	-
	2年	241	43	70	31	23	24	18	21	7	23	34	12	2	73	18	-
	3年	293	71	82	33	13	33	26	17	6	31	44	14	5	98	26	-
11 学図	1年	311	94	72	40	24	28	21	13	7	28	34	23	8	129	29	-
	2年	255	43	74	37	27	28	28	13	6	24	42	28	7	79	21	-
	3年	311	68	100	37	14	33	23	15	8	28	50	15	5	109	23	-
17 教出	1年	343	95	74	25	24	43	10	19	9	26	29	36	5	124	10	-
	2年	275	39	82	29	27	41	25	18	3	24	29	30	6	77	9	○
	3年	311	71	94	24	14	45	27	17	6	27	49	25	3	87	14	-
61 啓林館	1年	299	97	72	33	23	41	80	6	0	39	65	67	7	191	17	-
	2年	235	39	68	35	21	39	60	6	0	28	57	54	9	144	10	-
	3年	279	67	82	28	13	49	84	6	0	23	76	44	1	170	11	-
104 数研	1年	312	94	74	35	20	35	20	15	1	28	50	48	5	114	8	-
	2年	264	47	68	35	26	33	16	18	0	25	47	46	3	94	14	-
	3年	320	79	92	33	14	51	22	14	1	27	82	51	2	105	10	○
116 日文	1年	312	88	60	32	28	27	22	21	20	26	30	13	5	165	11	-
	2年	260	40	70	35	25	26	17	20	16	20	35	11	7	116	8	-
	3年	296	66	78	34	13	40	35	24	17	19	51	12	1	110	11	-

(3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等

2 東書	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の大きさはB5判が採用されている。 文節改行を取り入れたたり、例や問いに罫線を入れてまとまりを示したりすることで読みやすい紙面になるよう工夫されている。 カラーユニバーサルデザインが採用されており、小さい文字にはユニバーサルデザインフォントを採用し、視認性が高まるよう工夫されている。 環境に配慮した再生紙・植物油インキが使用されている。また、軽量な紙が使用されている。
4 大日本	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の大きさはB5判が採用されている。 重要な部分を強調するなどレイアウトを工夫したり、ユニバーサルデザインフォントを使用したりして、読みやすさに配慮されている。 カラーユニバーサルデザインにも配慮し、色覚の違いによって学習に支障が出ることがないように工夫されている。 環境に配慮した紙と植物油インキが使用されている。 表紙にフィルムを貼り、堅牢性に配慮されている。
11 学図	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の大きさはB5判が採用されている。 全面的にユニバーサルデザインフォントを使用することで、すべての生徒が理解しやすい文字になるように配慮されている。 カラーユニバーサルデザインの観点を取り入れ、目にやさしく判別のしやすい色使いをすることで、見やすく使いやすい紙面づくりに配慮されている。 本文用紙は、紙質を保ちながら軽量化を図るとともに、自然な色合いで光の反射や裏写りの少ない教科書用紙を用いられている。また、用紙やインキは環境に配慮したものが採用されている。
17 教出	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の大きさはB5判が採用されている。 色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮されている。 紙面でもデジタル画面でも、見やすく、読みやすいユニバーサルデザインフォントが使用されている。 紙の強度を維持しつつ、軽量な紙を使用することで生徒の身体的な負担が配慮されている。また、環境やアレルギーなどに配慮し、再生紙と植物油インキが使用されている。
61 啓林館	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の大きさはB5判が採用されている。 個人差を問わず、必要な情報が正確に伝わるようにユニバーサルデザインに配慮されている。 書体は識別しやすいユニバーサルデザインフォントを採用し、配色は色覚の特性によらず学びやすくなるよう工夫されている。 用紙には、軽くて印刷が鮮明な再生紙が採用されている。印刷には、植物油インキを使用し、環境やアレルギーに配慮されている。
104 数研	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の大きさはB5判が採用されている。 全体にわたってユニバーサルデザインフォントを大きめのサイズで用い、文章は文節で改行して、読みやすくなるよう工夫されている。 カラーユニバーサルデザインの観点から、色覚の特性によらず識別しやすくなるよう工夫されている。 補助的な図を多用するなど、認識の特性の違いに配慮されている。 軽い用紙に植物油インキを用いて印刷されている。製本は堅牢性に配慮されている。
116 日文	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の大きさはB5判が採用されている。 「ふり返しシート」「対話シート」はノートに貼ることを想定し、ひとまわり小さいサイズが採用されている。 すべての生徒が等しく学べるように、ユニバーサルデザインが採用されている。見分けやすい配色にしたり、色以外の情報を追加したりして、誰もが情報を読み取ることができるカラーユニバーサルデザインに配慮されている。 軽量化した再生紙と植物油インキが使用されている。表紙は耐水性や堅牢性に配慮し、表面加工を施されている。また、あじろ綴じ製本が採用されている。

3 その他

	今日的な課題への配慮や工夫
2 東書	<ul style="list-style-type: none"> 「防災・安全」「環境」「多様性の尊重」「伝統・文化の尊重」に関わる題材などを扱い、課題意識をもつことができるよう工夫されている。 SDGsに関連するものには、それぞれのゴールを設け、持続可能な開発の必要性について考えられるよう工夫されている。 登場回数や役割で性別が偏ることのないよう配慮されている。
4 大日本	<ul style="list-style-type: none"> イラストや写真で外国にルーツをもつ生徒を設定したり、外国の建造物や風景、外国人を掲載して、異文化理解を促すよう工夫されている。 車椅子を使っているイラストを扱うなど、障がいのある方に対する理解を促すよう工夫されている。 生命、自然、環境などに配慮した題材が設けられている。
11 学図	<ul style="list-style-type: none"> キャラクターや活動の場面などで、男女や特定のキャラクターに偏らないように配慮されている。 日本の伝統や文化を理解しようとする態度を養うことができるよう工夫されている。 SDGsに関連した題材が設定されている。
17 教出	<ul style="list-style-type: none"> ESD・SDGs教育の専門家による協力のもと、教材の場面設定など工夫されている。 人権教育の専門家による協力のもと、教科書内の表現が配慮されている。 日本の伝統や文化に関わる題材などを扱い、興味・関心をもてるよう工夫されている。
61 啓林館	<ul style="list-style-type: none"> 写真やイラストにおいては、性別や国籍などによって役割を固定しないなど、性別・人種、インクルーシブ教育など配慮されている。 リサイクルに関連した「紙パックから再生されるトイレットペーパー」など、SDGsや環境の保全に寄与する態度を育めるよう工夫されている。 日本の伝統と文化や他国を尊重する態度、防災への意識が養えるよう工夫されている。
104 数研	<ul style="list-style-type: none"> 地震、津波などの災害への備えを取り上げ、防災・安全意識につながるよう工夫されている。 SDGsとのつながりをはしがきに示し、数学を学ぶことが自身の将来に役立つことを意識できるよう工夫されている。 美化活動、スタッドレスタイヤと制動距離などの話題を取り上げ、環境問題・安全意識につながるよう工夫されている。
116 日文	<ul style="list-style-type: none"> イラストで性別による役割の固定化がないように配慮するなど、男女平等、多様性社会へ配慮がなされている。 キャラクターとして外国にルーツを持つ生徒を登場させるなど、多様性に配慮されている。 「SDGs」「環境教育」「伝統と文化」「防災教育」「キャリア教育」「消費者教育」に関連した内容が取り上げられている。